

3人4脚



H 30. 11 / 9 (金) 第8号

二宮西中学校学校だより

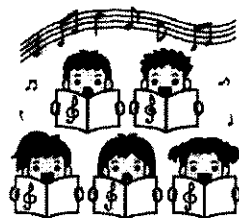
発行者:和田 智司

「一生懸命」…それだけで心を打つものだと改めて感じました。

～今回の素晴らしい歌声は、来年の秋麗祭でも響き渡ることを確信しています。～

好天に恵まれた 10 / 20 (土)、1年生にとっては中学生最初の秋麗祭、2年生にとっては2回目の秋麗祭、3年生にとっては、中学生時代最後の秋麗祭が開催されました。体育館および校舎の中で、多くの保護者、卒業生、地域の方々と挨拶を交わすことができました。多くの方々のご来校に感謝しました。

当日に向けいくつかの壁にぶち当たったこともあったと思いますが、最終的には、どのクラスも生徒が中心となり、合唱の練習、展示物の制作に自主的に取り組んでいました。・・・「一生懸命」ということは、それだけで心を打つものだと改めて感じました。



そして迎えた本番の合唱では、みんな緊張した面持ちでしたが、どのクラスも一丸となって「一生懸命」に歌っていました。毎日、昼休みや帰りの会で聞こえていた合唱の声が聞こえなくなってしまうのは残念ですが、今回の素晴らしい歌声は、来年の秋麗祭でも響き渡ることを確信しています。

開会式での
校長あいさつ

『ホーム二宮西中学校』として心をひとつ

～「最高の秋麗祭」をみんなで創り上げましょう。～

みなさんおはようございます。・・・いよいよ秋麗祭が始まります。私にとっては、1年生と同じ、初めての秋麗祭になります。今日の日を大変楽しみにしてきました。

さて、どのクラスも、「最優秀賞をとりたい。」という強い意気込みで、合唱の練習そして「ステンドグラス」の制作に取り組んできたことと思います。

賞が気になることとは思いますが、今日まで、クラスの仲間と共に心を一つにして頑張って取り組んできたこと。このことが、実は、賞を取ることもより大切なことだと思います。

クラスメイトとともに、熱心に練習に取り組んできたからこそ味わえる安心感と連帯感、・・・クラス全員の力で一つのものを創り上げようとする、意欲の高まりと信頼感・・・それらは集団の中にいるからこそ、初めて学ぶことができるのです。この後の合唱では、クラスの仲間と心を一つにし、その思いを歌声に込めて欲しいと願っています。

ご来賓の皆様、保護者の皆様、早朝よりご来校いただき誠にありがとうございます。仲間との協力によって、大いに成長した生徒の姿をご覧いただき、温かいご声援を賜りますようお願い申し上げます。・・・それでは、会場みなさん、『ホーム二宮西中学校』として心をひとつにし、「最高の秋麗祭」をみんなで創り上げましょう。

～秋麗祭に対して、地域の方から心温まる葉書をいただきました。～

秋晴れの好天気にも恵まれて、盛大な秋麗祭・・・主役の生徒を教職員が取りかこんで、盛り上げ、さらに卒業生や地域の皆様や色々な方々を取り込んで、素晴らしいお祭りでした。私も、日頃は老人仲間の会合ばかりで、10代の美少年に接しられ、忘れていた青春の息吹を思い出し、幸せな一日でした。(後略)

継続は力なり…0（ゼロ）をいくらかけてもダメ!!

～「計画なくして成功なし」・・・目標実現のために具体的な「継続」の呼びかけをお願いします～

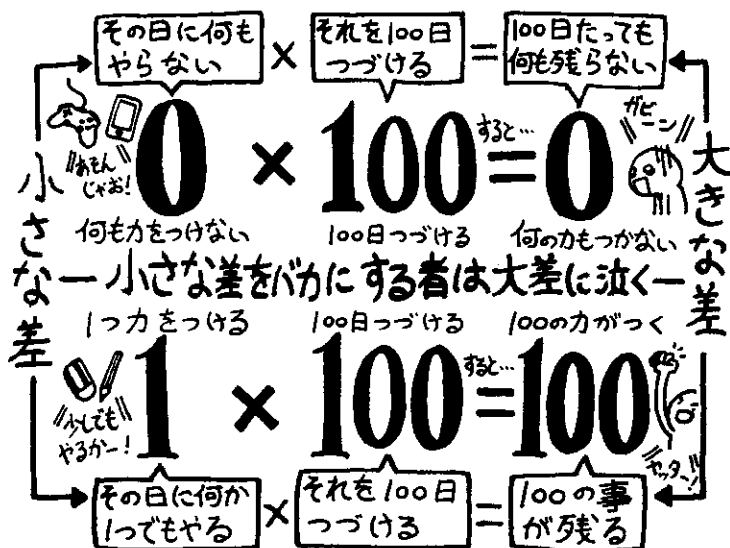
大きな学校行事も終わり、学習に集中できる時期となりました。1・2年生にとっては期末テストまであと18日、3年生にとっては、期末テストが本日終了し、今日ぐらい羽を伸ばしたいと思っていることでしょう。しかし、入試はすぐにやってきます。

学習においても、学校行事と同じようにクラスのチームワークを発揮できるのではないのでしょうか・・・「自分だけがつらいのではない。みんな頑張っているんだ。自分も頑張ろう。」という気持ちで、テスト・入試の勉強に取り組んで欲しいと思います。

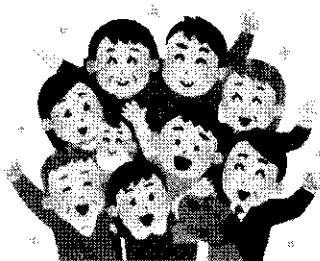
これは、十数年前のある教育雑誌で紹介されたものです。学級担任をしているとき、機会あるごとに子ども達に伝えてきました。

どんなことでも続けるということは難しいことです。だからこそ、この「継続」は自分の本当の力になるのです。テスト、および入試前の今だからこそ、何か1つでいいので、ぜひとも「継続」できることを考え、今日から実行して欲しいと思います。

「計画なくして成功なし」・・・しっかりとした計画を立てるとともに、短期的、長期的な取り組みにぜひ、具体的な「継続」を入れて欲しいと思います。



よりよい人間関係づくりの第一歩は挨拶である!!



私は、ほぼ毎朝、校庭・体育館・校舎内を歩いています。登校中及び部活動中の生徒と挨拶を交わすことができるのは本当に楽しいです。笑顔で明るい挨拶が返ってくると、本当に嬉しくなります。気持ちが晴れます。今日も一日良い日になりそうだと思います。今日も一日頑張ろう・・・そんな気持ちになるのです。

しかし、うなずくだけで声が全く出ない、目を合わせない、という挨拶が返ってくると、私までとても重く暗い気持ちになります。そんなとき、挨拶を交わすというのは、単に言葉を交わすことにとどまらず、お互いの気持ちも交わしているのだと実感します。

詩人の長田弘さんは「なつかしい時間」という著書の中で、挨拶について次のように述べています。『挨拶という言葉のものは、アイは押す、サツは押しかえすという意味で、相手あつての言葉だ。声を掛ける、それに応じる。見知らぬ者同士が、声を掛け合うことでお互いをそこに認める言葉である。』挨拶の一言で、お互いに認め合い、いたわり合うことができるとは、実に素晴らしいことではありませんか。

私は、よりよい人間関係づくりの第一歩は挨拶であると確信しています。自分がどういう挨拶をしているか、自分の挨拶を相手はどう受け取っているか、自分ではなかなかわからないものです。本当に相手に伝わる挨拶ができているか、積極的に挨拶しているか、私自身もう一度自分の挨拶の仕方やその質について、しっかりと考えたいと思います。みなさんも温かい心の交流のために、自分の挨拶を振り返ってみてください。